



オンライン開催

流域治水シンポジウム2022

参加
無料



～協働して水災害対策に取り組もう～

気候変動の影響による水災害の激甚化・頻発化等を踏まえ、流域全体のあらゆる関係者が協働して水災害対策に取り組む、「流域治水」への転換が全国的に進められ、令和3年11月1日には、流域治水の実効性を高める流域治水連携法も全面施行されました。この度、先進事例の取組の紹介などから「流域治水」について少しでも多くの方に知っていただき、地域住民、各種団体の皆様と一緒に「何ができるのか」を考えることを目的にシンポジウムを開催します。

日時 2022年3月8日火
13:00~15:30

定員 500名

新型コロナウイルス感染症の
感染拡大防止の観点から、
開催方式がオンラインのみとなりました。

主催:国土交通省 関東地方整備局
後援:全国地方新聞社連合会

プログラム

13:00~13:05 開会挨拶

塩井 直彦……国土交通省 関東地方整備局 河川部長

13:05~13:15 流域治水に関する簡単な紹介

後藤 祐也……国土交通省 関東地方整備局 河川計画課長

13:15~13:45 基調講演1

流域治水に関する先進事例等
岸 由二氏…慶應義塾大学名誉教授・理学博士

13:45~14:15 基調講演2

気象災害から命を守るために
～近年の異常気象と防災情報の活用法～
井田 寛子氏…気象予報士・キャスター

14:15~15:25 パネルディスカッション

**『流域治水』に対し、
地域住民、各種団体にできること**

岸 由二氏…慶應義塾大学名誉教授・理学博士

井田 寛子氏…気象予報士・キャスター

鈴木 一郎氏…特定非営利活動法人 埼玉県防災士会 理事

田村 孝浩氏…宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 准教授

駒場 聖氏…宇都宮市 経済部 農業企画課 企画調整グループ 係長

須藤 純一……国土交通省 関東地方整備局 河川情報管理官

藤本 雄介……国土交通省 関東地方整備局 河川調査官

15:25~15:30 閉会挨拶

出演者



岸由二氏(きし ゆうじ)

慶應義塾大学名誉教授・理学博士

進化生態学、流域アプローチによる環境保全、都市再生、環境教育などを専門とする。鶴見川流域、三浦半島小網代、多摩三浦丘陵など首都圏のランドスケープに沿った都市再生活動を実践している。過去には国土交通省河川分科会委員を歴任し、現在は、鶴見川流域水委員会委員として活躍。国土交通省が「流域治水」への転換」を打ち出す以前より、流域思考に基づく自然保全、水土砂防災の理論・実践に関わる。NPO法人鶴見川流域ネットワーキング代表理事、NPO法人鶴見川源流ネットワーク理事長、NPO法人小網代野外活動調整会議代表。



井田 寛子氏(いだ ひろこ)

気象予報士・キャスター

筑波大学第一学群自然学類化学科卒業(宇宙化学研究室)後、製薬会社を経てNHK・TBS等メディアを中心に活動。平成26年ニューヨークで開かれた国連気候サミットへの参加をきっかけに気候変動問題について学び、発信を続ける。「難しいことを分かりやすく」伝えることにこだわりを持ち。現在NPO気象キャスター・ネットワーク副理事長・WWFジャパン顧問・東京大学生産技術研究所協力研究員。環境・体・食の3つのバランスの大切さを感じたことから、全米ヨガアライアンスインストラクターや野菜ソムリエを取得。



鈴木一郎氏(すずき いちろう)

特定非営利活動法人 埼玉県防災士会 理事

NPO法人埼玉県防災士会理事(広報担当)、NPO法人日本防災士会会員・NPO法人御前崎災害支援ネットワーク会員。埼玉県自主防災リーダー養成指導員として埼玉県内各地でDIG・HUG等の指導を行っている。災害ボランティア活動として、岩手県大槌町や常総市他での活動実績を持つ。かつては埼玉県内で「川の国アドバイザー」としての活動実績を持つ専門分野は化学系企業での勤務経験からBCP・化学物質のリスクコミュニケーション・化学薬品の安全管理である。



田村 孝浩氏(たむら たかひろ)

宇都宮大学 農学部 農業環境工学科 准教授

東京農工大学大学院連合農学研究科生物生産学専攻博士後期課程修了後、筑波大学助手、宮城大学講師を経て現職。著書に農村計画学(朝倉書店・共著)、野生動物管理システム(東京大学出版会・共著)、ランドスケープアーキテクチャーの起点(ぎょうせい・共著)など。農業に従事する方が安全に作業できるようなユニバーサルデザイン圃場の設計と、生産性の向上と自然環境保全が成り立つような仕組みを構築するための研究活動を展開している。



駒場聖氏(こまば さとし)

宇都宮市 経済部 農業企画課 企画調整グループ 係長

令和元年度より宇都宮市経済部農業企画課係長。田んぼダムの整備や「宇都宮市田んぼダム研究コンソーシアム」の立ち上げに従事。宇都宮市は、令和元年東日本台風による市内中心部の浸水被害をきっかけに、令和3年5月に「流す」「貯める」「備える」の3つの取組を柱とした「宇都宮市総合治水・雨水対策推進計画」を策定。田んぼダムの位置付けは、「貯める」取組の一つ。令和2年2つのみや中央土地改良区との「田んぼダムに関する協力協定書」の締結をはじめ、5つの土地改良区と協定書締結し、農業者の同意を得て、整備を推進。



須藤 純一(すとう じゅんいち)

国土交通省 関東地方整備局 河川情報管理官

平成28年4月より下館河川事務所副所長として、平成27年9月関東・東北豪雨により甚大な被害をうけた利根川水系鬼怒川で、全国初となるハード対策とソフト対策が一体となった緊急的・集中的な治水対策である「鬼怒川緊急対策プロジェクト」に従事。平成29年4月からは国土交通省水管理国土保全局治水課流域減災推進室課長補佐、平成31年4月からは霞ヶ浦河川事務所長として、霞ヶ浦流域治水プロジェクトの策定に従事。令和3年4月より現職。

シンポジウム申込方法

参加ご希望の方は、下記URLまたは二次元コードより必要項目をご記入の上、お申し込みください。

<https://www.unei-jimukyoku.jp/chiikikasen2022/>

■締切／2022年3月6日(日)

■申込は定員になり次第締め切らせていただきます。

■お申し込みいただいた方にはメールにて「視聴用URL」をお送りいたします。

■新型コロナウイルス感染症等の影響によりプログラムの変更や中止とさせていただく場合がございます。



視聴のご案内

本シンポジウムはZoomウェビナーによりオンライン配信で開催いたします。

○Zoomウェビナーに接続可能な端末(パソコン、スマートフォン、タブレット等)をご用意いただき、ご参加ください。

○Zoomウェビナーのため、ご自身のパソコン又はスマートフォンのマイク・カメラは使用できません。

○配信動画の録画・キャプチャー等の行為はお控えください。シンポジウムの内容は後日、アーカイブとして公開されるほか、新聞紙面上での採録を予定しております。

○システムトラブルなどにより、画像・音声に乱れが生じる場合がございます。

○通信費は参加者様のご負担となります。

○ご使用の端末のセキュリティ制限によりZoomウェビナーを利用できない場合がございます。

お問合せ先

流域治水シンポジウム2022事務局

TEL:03-6432-4447 (土・日・祝を除く平日10:00~17:00)

メール:chiikikasen2022@unei-jimukyoku.jp